

筑波大主催「科学の芽」賞

①

筑波大学が毎年実施している朝永振一郎記念「科学の芽」賞（科学コンクール）。今回は学校として活用している事例と、小学生時代に「科学の芽」賞を受賞した児童の「その後」を追った。本年度の応募は8月18日からスタートする。

大きい」と話す。高学年で「飯はどれくらい日持ちするは中学校進学を見据え、Pか」など、身の回りの素朴な疑問を懸命に解決しようとする児童も多く、毎年、身の研究を表現する手法を、その着想の柔軟さに驚かされ、学ぶ良い機会になっているという。

「『うちの形と涼しさの関係』や『家で炊いたての芽』賞を活用する予定だ。

小学生時代3度受賞・東虎太郎さん

「研究へ抵抗感少なく」

現在、医学の道にまい進中



小6などで「科学の芽」賞に選ばれた実績がある東さん

象が少なからず残っている」とも打ち明ける。

しかし、小学校時代は「知ることの楽しさ」を実感できるような機会がそう多くはない。そういった意

味では「貴重な経験が得られた」とも話している。

「科学の芽」賞・実行委員会事務局（筑波大学・学校支援課内） ☎03・3942・6806

「うちの形と涼しさの関係」など 身の回りの疑問を題材に 洛南高校附属小で活用例

夏休みに入る前に「科学の芽」賞に応募することを伝え、自由研究で扱う内容やリポートのまとめ方に関する指導を実施。理科担当教員が「身の回りの疑問を研究・解決してみよう」と声を掛けを行っている。題材をうまく見つけられない児童には、自身の興味・関心を把握するためのアンケートや資料となる本などを用意し、支援を行う。

児童の個性あふれる多彩な作品は、理科教員が一人一人の内容を確認し、必要に応じてフィードバックを行った上で大学に提出している。

教育活動のさらなる充実に向け、学校全体で「科学の芽」賞を活用しているの

「以前、別のコンクールとの併用を試みたが、最終的に『科学の芽』賞に一本化させていただいた」と明かす6年担当の近藤裕介教

筑波大学附属小学校に通っていた小学生時代に、「科学の芽」賞を受賞した経験を持つ東虎太郎さん。現在は「医学の道」を目指し東京科学大学医学部医学科に通う大学3年生だ。

応募するきっかけは、親からの「応募してみたら？」という声掛けだった。小3の時から応募を続け、小学校時代に3度の受賞歴を持つ。小学校時代最後の小6の時に応募した作品「ジンの時に応募した作品「ジンの時」をカッパよく飛ばせたい」がフリースタイルスキーを科学的に考える」とも、

「科学の芽」賞に選ばれた。フリースタイルスキー選手（国の強化指定選手）としても活躍している東さん「今につながっている」と

ん。小学生時代はスキーに夢中だったという。結果として小学校6年生の時の作品は、自分の好きなことをは少なかった。自身にとり「科学の芽」賞は、題材に選んだ形になった。制作期間は約2カ月。スキーの練習と学校行事の準備などに追われ、体調を崩すなど、途中でやるべきことと制約がある中でやるべきこととをうまく調整できたことに感謝している。そのため、「楽しい瞬間というよりも、苦しい時間だった印

■「科学の芽」賞 本年度募集要項

応募期間	8月18日(月)～9月13日(土) ※消印有効
応募資格	小学校3年～6年、中学校、義務教育学校、高校(高等専門学校3年次までを含む)、中等教育学校、特別支援学校(小学部3年～高等部)の個人もしくは団体 ※小学生部門、中学生部門、高校生部門に分けて募集する
応募方法	詳細は附属学校教育局WEBサイト(https://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/)に掲載
結果発表	11月下旬、筑波大学WEBサイトに掲載
賞・記念品	「科学の芽」賞の受賞者には学長から賞状と記念品を贈呈 ※その他、奨励賞・努力賞などがある ※応募者全員に記念品を贈呈
表彰式・発表会	12月21日(日) 場所：筑波大学・東京キャンパス

日本教育新聞 8面にて掲載
令和7年 7月7日 発行

本記事は、日本教育新聞社から掲載許可を得ています。記事の著作権は、日本教育新聞社に帰属します。記事の無断での転載はご遠慮ください。